

ATEM Newsletter

Apr. 2011 No.21

発行日 : 2011年11月25日
 発 行 : 映画英語教育学会事務局
 住 所 : 〒169-0075
 東京都新宿区高田馬場
 4-3-12アルク高田馬場4F
 TEL : 03-3365-0182
 FAX : 03-3360-6364
 E-mail : office@atem.org
 郵便振替 : 00820-3-1477



映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

ATEM(映画英語教育学会)第4代新会長に角山照彦氏が選出!!



■ 新会長の挨拶

ATEM第4代会長
 角山照彦 教授
 (広島国際大学)

Teruhiko KADOYAMA

この度図らずも映画英語教育学会第4代会長を任されることとなりました。何分未熟な身ではあります、何卒よろしくお願ひいたします。

私が会長として目指すことは、本学会の学術団体としての地位をより強固なものにしてゆくと共に、産学協同を視野に入れた「開かれた学会」として学会の活性化を図ることであります。

1995年の設立以来、本学会はこれまで映画を活用した英語教育の分野において先導的役割を果たしてまいりましたが、近年は会員数や大会参加者がかつて程の勢いを失うなど、やはり課題も抱えております。しかし、「映画」というエンターテイメントを冠した本学会の性格を考えますと、英語教育のみならず英米文学、英語学、コミュニケーション学、映画学等、幅広い分野の研究者にアピールできる可能性を秘めており、学会名称にある「映画」「英語」「教育」という3つのキーワードを創造的に組み合わせることで、まだまだ新たな可能性が生まれると確信しております。また、本学会の将来を考えると、専門的な学術研究のみを追求する「近寄りがたい」学会を目指すのではなく

く、映画を活用した様々な英語学習を幅広い層の教育者や英語学習者に啓蒙できるような「開かれた学会」を目指すべきだと考えております。多くの研究者にとって、映画は単に研究対象であるだけでなく、自身の英語学習の道具であり、大きな動機づけでもあったはずです。その原点を忘れない学会でありたいと思います。さらに、広く産業界とも連携を模索し、産学協同を推進してゆくことも学会の将来に重要であると考えます。

そのための具体的な方策としては、学会の中核事業である研究紀要および全国大会の活性化を最優先課題として挙げます。まず紀要については、優秀論文賞の新設など、優れた論文の投稿に対する奨励策を講じることにより、より一層のレベルアップを図ります。次に全国大会については、支部間の連携や協力を強化すると共に、新しい企画を積極的に取り入れ、学会のメイン行事に相応しい規模・中身にしてゆくことを目指します。また、国際交流においては、韓国の姉妹学会STEMとの学術交流は引き続き継続してゆくと共に、新たな姉妹学会との提携も視野に入れ、会員の皆さんに幅広い学術交流の機会を提供したいと考えています。

最後になりますが、言うまでもなく学会は会員一人ひとりが主役です。是非日頃の授業実践や研究の成果を積極的に大会や紀要で発表してください。皆さんが会員であることに誇りを感じることができるような学会を目指して、私は会長として全力を尽くしてゆく所存であります。

学術研究と啓蒙のバランスがとれた「より開かれた学会」として、さらなる発展を目指す。



今後の活動方針について

映画英語教育学会会長
角山照彦(広島国際大学)

「より開かれた学会」を目指すにあたって

1995年の学会設立に当たって作成された学会設立趣意書には、特に重要な点として次の3点が記載されています。

- ・時代のニーズに応える英語教育を実践したい
- ・Authenticな(本物の)英語に触れさせてやりたい
- ・映画は理想的な英語の教材になる

こうした共通認識に立脚し、我が国における英語教育に新しい教育方法を確立するために共に研究をし、情報の交換をする目的で生まれたのが本学会です。

この原点を踏まえながら、学術研究の推進と映画英語教育の普及という2点を主軸として今後も活動を続け、さらなる発展を目指してゆきますが、具体的な活動目標は3ページ下の表の通りです。

本学会の基本は「映画を活用した英語教育」であり、今後もこのことに何ら変わりはありません。しかし、本学会のカバーする領域を「英語教育学という分野の中で、特に映画を活用したもの」(図1参照)と限定してしまうと、対象となる研究領域を必要以上に狭めてしまい、今後のさらなる発展の障害にもなりかねないと懸念しております。

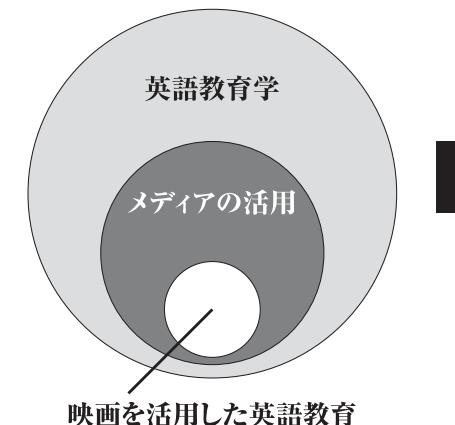
ですから、学会名称にある「映画」「英語」「教育」という三つのキーワードが示す分野のうち、三つが互いに重なり合う部分を核としながらも、それぞれのカバーする領域まで含めて広く捉えて欲しいと考えています(図2参照)。映画を活用した文化論や社会論など、英語教育との直接の関連性は低くとも、我々映画を扱う研究者にとって参考になる研究は数多くあるはずです。

また、今年、小学校でも英語教育が実質的にスタートしましたが、映画に代表される映像メディアの英語教育における可能性は非常に大きく、今後一層注目されてゆくことでしょう。そうした流れに柔軟に対応すべく、対象とするメディアも必ずしも劇場公開される「映画」のみに限定するのではなく、「映画」に代表される映像メディアと広く捉え、海外TVドラマなども研究対象に含めて頂いてよいと考えます。

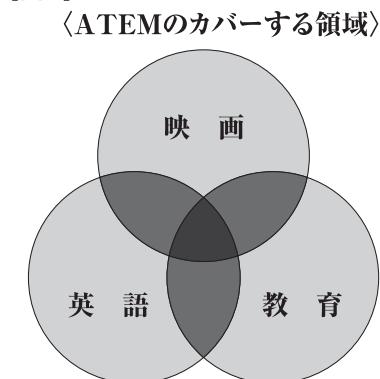
さらに、会員についても、いわゆる「研究者」に限定せず、幅広く捉えて欲しいと思います。学術研究面を強調すればどうしても敷居が高くなってしまうのは否めませんが、本学会は設立当初より「映画」

というエンターテイメントを英語教育の分野に導入しようとする非常にユニークな志を持った学会であります。そのことが研究者のみならず、幅広い層の教育者や一般の英語学習者にもアピールする原点なのでしょう。「映画を使った英語教育」という言葉は大変魅力的に響きますが、実際実践してみると指導上難しい点が多くあるのも事実です。様々な分野、そして様々な立場の会員たちが意見を出し合い、こうした点の改善に結びつけてゆけるような学会にしてゆきたいものです。

【図1】



【図2】



今後の活動に向けての具体的方策

| コンセプト | 内 容 |
|-----------------------|--|
| 学術研究団体としての基盤強化 | <p>1.優秀論文賞の新設 優れた研究に対する奨励策により、学会としての研究力の向上を目指します。</p> <p>2.学会紀要のオンラインデータベース化 国立情報学研究所の運営する学術文献データベースであるNII論文情報ナビゲータ(略称、CiNii)を活用し、これまでの会員の研究成果を幅広く社会に公開してゆきます。</p> <p>3.ホームページの大規模リニューアル 既存の掲載コンテンツを見直し、学術研究や教育に役立つコンテンツをより使いやすい形で掲載すると共に、内容のさらなる充実を図ります。</p> |
| より開かれた学会(コンテンツと広報の充実) | <p>1.全国大会のさらなる充実 過去最高となる200名を超える参加者のもと大盛況に終わった2011年度の名古屋大会の勢いを持続させるべく、今後も研究者のみならず幅広い層の参加者にアピールできるような大会運営を目指します。</p> <p>2.支部活動のさらなる充実 各支部の特色を生かした支部活動の一層の活性化を目指すと共に、支部間の共同プログラムなど、支部間の連携も進めてゆきたいと思います。また、支部大会の情報は全会員へ周知徹底するなど、会員への広報を充実させてゆきます。</p> <p>3.国際交流の推進 海外の姉妹学会との学術交流を一層推進してゆくと共に、映像メディアの活用に関連した海外学会の紹介など、広報活動も充実させます。</p> <p>4.会員管理システムの効果的な運用 会員情報の一元管理を進め、会員に有用な情報を迅速に配信してゆくことを目指します。</p> |

教育界と出版界、映画界とIT・メディア業界 の融合した新しい学会の歩みを名古屋から!

ATEM 第17回 全国大会の報告

2011年8月28日(日)
名古屋学院大学 名古屋キャンパス

名古屋大会の新記録が示した ATEMの将来への期待

大会実行委員長
鈴木雅夫
(名誉理事)
(スクリーンプレイ)



平成23年8月28日、第17回全国大会が名古屋市内の名古屋学院大学(名古屋キャンパ白鳥学舎)にて開催されました。学会の全国大会が中部地方で開催されたのは第4回大会以来、13年ぶりのこととなります。

大会のテーマは学会創設の初心を思い出し「映画英語教育の基本と多角的用法の再考」、最近の学習指導要領の改訂を意識して(映画英語教育を核にした小中高大の連携)とも副題されました。

大会冒頭に配置したのは「新学習指導要領にもとづく英語科教育法と映画の活用」と題した前会長磐崎弘貞先生コーディネーター兼パネリストのシンポジウム。大会の最後にお願いしたのは「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」京都大学

大学院山梨正明教授の特別講演。詳しくはおののの報告欄をご覧下さい。

今大会では、学会16年間の歴史に刻まれた歴代新記録があります。それは多種多様に応募され報告実施された21件もの研究発表と当日速報された216名の大会参加者です。正式集計は近く事務局より発表されることでしょう。

映画英語教育学会は語学系学会としてまだ歴史が浅く、規模も決して大きなものとはいえません。それでも本全国大会の2つの新記録が示したもののは、本学会が21世紀、我が国の国際活動を担う、若き日本人青少年たちの国際共通言語獲得のために、期待されるべき、新しい教育と研究を目指す本学会の役割であると改めて思い起こしました。

特別講演

「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」

山梨正明 教授
(京都大学大学院)



2011年8月28日(日)に名古屋学院大学で行われたATEM第17回全国大会に、講師として山梨正明氏(京都大学大学院教授)をお迎えした特別講演会「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」が開催されました。学会員・非会員及び一般の聴衆を含めた約150名が参加しました。山梨先生は、主に認知言語学、記号論、語用論の観点から、言語と人間の知のメカニズムの解明に向けて精力的に研究を進められています。本講演では、現在、国際的に注目されている認知言語学の観点から、言語学の映画英語教育への適用の可能性についてお話ししていただきました。その内容は以下の通りです。

認知言語学のパラダイムでは、言語能力は、人間の進化における単なる知性の産物ではなく、生物一般の感覚・運動的な身体的経験に根ざす認知能力(特に、認知能力の中核を成す)を不可欠の前提としています。創造的イメージ能力が、言語能力の根源的な基盤として日常言語の発現を支えていると考えます。つまり、認知言語学のアプローチでは、言語能力はこれらの

一般的な認知能力から独立した自律的な言語知識としては規定できないという視点に立っていて、身体性にかかわる前一表象的、前一記号的な生きた経験の場から、言語知識の発現と文節化のプロセスを根源的に問い合わせていく立場を意味します。この新しい言語学のアプローチは、母国語の言語能力の問題だけでなく、外国語の習得に関わる言語能力と言語運用の問題の解明にも新たな知見を提供することを、構文ネットワークモデルや発話行為の基本構文パターンを例に挙げ、映画の台詞から具体例を引用され、分かりやすくお話ししていただきました。

このように講演会の前半では認知言語学のパラダイムと基本について、また後半は、認知言語学や語用論的観点からの映画英語教育への適用可能性についてお話ししていただき、これらの映画英語教育研究にも関連のある深い示唆を与えていただきました。

文責:宝壺貴之(岐阜聖徳学園短期大学)

今回の大会では200名を越える参加者を迎え、平行4会場で五つの研究発表が準備されました。総会場での特別研究発表1件を加えて合計21件の発表が行われました。今大会は各会場で平均で40名以上の参加者があり、活発な大会となりました。



特別企画:シンポジウム

コーディネーター 磐崎弘貞

発表者

秋山敏晴/石川慎一郎/磐崎弘貞

「新学習指導要領にもとづく英語科教育法と映画の活用」

2008~2009年に改訂された小中高校の学習指導要領を背景に、映画教材が持つボテンシャルを探るのが本シンポジウムの狙いであります。以下の3つの発表を行った。

発表1

秋山敏晴(北海道工業大学)

「小学校英語活動における映画の利用について」

小学校言語活動において、映画は「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」有効な教材である。なぜなら、映画は(1)オーセンティックで良質な英語を提供でき、(2)「内容を類推する力」を一層伸ばし、(3)文化を具体的に提示できるからである。そこで、児童にふさわしく、字幕なしで会話を集中できる場面と時間設定を考慮した上で、そうした映画題材の活用例を提示し、児童が映画で英語に親しみ、英語を使うこと自信心を深めることができるよう示唆した。



発表2

石川慎一郎(神戸大学)

「コーパス・映画・語彙:小中高の英語教育への示唆」

新指導要領は、「詰め込みかゆとりか」という従来の二項対立を超えて、新たに「生きる力」という方向性を打ち出している。そこで、英語教育、とくに語彙指導の枠組みにおいて「生きる力」を再定義すると、英語圏の文化を背景として語彙の機能

や仕組みを深く理解し、それを実際のコミュニケーションの場面で適切に運用することの二面が重要になる。この文化と運用の両立の点から、映画は有望な語彙指導の教材となる。しかし、映画語彙は学校現場で使用するには(1)量が多いすぎる、(2)難度が高すぎる、(3)逸脱が過ぎる、という懸念があった。本発表では、教科書コーパスと映画コーパスを多角的に比較した結果、作品を適切に選べば、比較的初級の指導にも映画が活用できることを実証した。

発表3

磐崎弘貞(筑波大学)

「大学英語教育でvideo actingと中高校への示唆」

コミュニケーション活動を実施する上で重要な点は、場面での適切さである。誰が誰にどういう状況で話し/書いているのかという点は、語彙・文法構造・音調など、多くの言語要素に関連している。こうした点を統合的に学ぶ手法として、大学でのvideo actingの実践を紹介した。発表では、TVホームコメディFamily Tiesの一部分を題材に、誰と誰がどういう場面でこうした会話をしているのか、本文脈で特徴的な表現は何かといった点を、templateと呼ぶ学習シートで確認・練習した上で、グループ活動としてそのシーンをそのまま再現し録画する手法を紹介した。こうした実践によりコミュニケーション・スキルを向上させながら、積極的な学習態度を育成することができることを報告した。



北の大地「札幌」に新支部誕生!

ATEM北海道支部設立大会のご案内

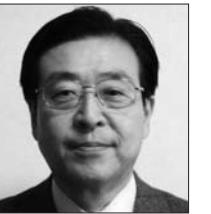
北海道支部設立にむけて

ATEMが各支部を中心に活動をしている現在、北日本でも一日も早く支部を設立し、地元会員に独自の研究活動や学術交流の場を提供する必要性があると考えます。このことについては、これまで北海道会員を中心に長期に渡り検討がなされてきました。そしてこの度、当学会の有志を中心に、ATEM支部会則に則り、北海道支部の設立を決断しました。

支部設立により、教育・研究機関等、多様な教育現場が集まる石狩地方、札幌を中心に、北日本の映画英語教育の実践と研究が活発になるはずです。もともと、北海道は、札幌、函館、小樽、釧路、富良野、夕張、歌志内など数多くの映画のロケ地を抱えており、人々の映画への思い入れは強い土地柄もあります。この地の熱心な会員が定期的に集い、研究素材の収集や研究活動、情報交換を日常的に行うことになれば、地元会員の当学会に対する“思い”が一層深まり、さらに小・中・高・大の連携を見据えて北海道の英語教育に新しい風を吹かせることができるを考えます。そして、このことは日本の新しい英語教育の発展にも寄与していくものと信じています。

新設の北海道支部では、以下の3点を目標に、映画を活用した実践的英語教育・研究の発展に貢献していきます。

支部設立世話人会代表
ATEM理事 秋山敏晴
(北海道工業大学)



- 1. 映画英語教育研究に関する情報収集と情報交換
- 2. 実践的英語コミュニケーション能力養成のための映画英語教授法の開発
- 3. 映画を活用した異文化理解教育の促進

具体的な支部活動としては以下の内容を掲げ、全国の会員からもご指導、ご協力をいただきながら活力ある支部活動を行っていきたいと考えています。

- ・セミナーやワークショップの開催
- ・授業実践の発表と教材開発
- ・支部プロジェクトの検討
- ・研究成果の出版の検討

より多くの会員がこの趣旨に賛同してくださり、北海道支部の活動にご協力、ご参加いただけることを心よりお願い申し上げます。

北海道支部結成大会のご案内 映画英語教育学会 北海道支部 結成大会

Hokkaido Chapter, ATEM-The Association for Teaching English Through Movies

日 時 平成24年1月8日(日)、12時30分～

会 場 内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala(札幌市中央区大通り東3丁目1)

内 容 ・支部結成準備の経過報告、現会員数と出席者(委任状)数に基づく成立の確認

- ・映画英語教育学会北海道支部 結成宣言
- ・記念講演会 & ディスカッション 「学力の多様化に対応した映画英語教育のあり方」
講師:映画英語教育学会 会長 角山 照彦(広島国際大学) / 司会:映画英語教育学会 理事 秋山 敏晴(北海道工業大学)
- ・研究発表(1)「映画を活用した英語の授業(仮題)」
塚越 博史(北海道医療大学)
- ・研究発表(2)「映画を活用した英語の授業(仮題)」
松田 愛子(翻訳家)
- ・ワークショップ「Screenplay iPen を用いた英語学習」
賛助会員会社 スクリーンプレイ
- ・コーヒー・ブレイク「教材を片手に、映画英語教育を語ろう」

連絡

会場準備と議決権確認の都合上、結成大会に参加を希望される方は以下より、必ず事前連絡をお願いします。

hokkaido@atem.org

大会
参加者
特典



ATEM贊助会員会社
「スクリーンプレイ」から協賛

『スクリーンプレイシリーズ』一冊贈呈!!

名作映画完全セリフ集『スクリーンプレイ・シリーズ』は、映画のセリフと書き(シーンの説明)を完全に英語および日本語で文化化したもので、映画をバイブルな読み物として楽しむことができ、また英会話学習や学校教育に利用出来るシリーズの名称です。

*このスクリーンプレイシリーズは創刊以降、毎号、ATEM会員先生方がセリフの翻訳や語句解説、コラムなどを担当しています。

委員会報告

国際交流委員会より

国際交流委員会委員長
国際交流専務理事 倉田誠



国際交流委員会の業務は色々ありますが、主なものは海外の学会との交流に関する事柄を議論し、理事会での承認を得た情報をATEMの会員の方々に発信するというものです。また海外の提携学会との架け橋となり、相互交流を促進することも大切な役割と考えております。現在、ATEMと提携のある海外の学会は大韓民国の映像英語教育学会(The Society for Teaching English through Media, 以下STEMと略する)のみですが、今後は他の海外の映像英語教育系学会とも連絡を取り、更なる学術交流の道筋を模索したいと考えております。

さて2011年の主な活動としては、まず4月23日に国立釜山教育大学で開催された第15回STEM全国大会(大会テーマ:Conversation Analysis through Movies)への参加を促進することになりました。関係各位のご尽力のお陰で、ATEMからは総勢15名の参加者がおり、内4名の研究発表者にもご活躍いただきました。ただ今回は渡韓の際に不測の事態が起ったこともご報告申し上げます。学会前日の4月22日に釜山への1時間程度の快適な空の旅をする予定でしたが、当日は釜山

国際空港が濃霧のため、午後の全便乗り入れ不可という処置が取られました。九州支部の参加者のみが空港閉鎖前に到着したのですが、他の支部からの参加者は最大10時間の迂回ルートを余儀なくされました。しかしながら、仁川国際空港経由で釜山入りという長旅に耐えた甲斐があり、大会当日は一軒、快晴に恵まれました。第15回大会は、国立釜山教育大学校の素晴らしい会場で開催されました。有意義な研究発表の数々を拝聴し、STEMの会員諸氏との友好的な学術交流もできたと自負しております。学会の後は心温まるご歓待を受け、STEMの会員諸氏との懇親の一時も満喫できました。

2012年の第16回STEM全国大会から、開催日が5月の第2土曜日に変更されるという連絡をいただいております。これは日本の教育機関は4月が繁忙期であることを鑑み、STEMの上層部の方々がご高配くださった結果です。またご好意でGWもはずしてくださっていますので、渡韓の運賃もこれまでと変わらない安価なものとなります。来年の開催校は、ソウルにある韓国外国语大学です。ATEMの会員の皆さまには奮ってご参加をいただければ嬉しく思います。またSTEMという国際学会での発表もご一考いただき、更なる学術業績を挙げていただければ存じます。STEMでの研究発表の応募に関する詳細はATEMのHPをご覧いただけます。下記のURLをご参照ください。

<http://www.atem.org/>

今後ともATEMの国際交流委員会の業務に対し、皆様のご支援とご協力を賜ることができましたら幸いに存じます。

支部報告

東日本支部

スプリングセミナーを3月に予定していたが、震災の影響で5月29日(日)に延期して、麗澤大学東京研究センター(新宿)でおこなった。テーマは「映画英語教育のためのコンピューター・スキルを学ぶ」で、会員の大井龍氏が講師を務めた。6月例会を6月26日(日)、同センターで開催した。「韓国と日本の、映画・TVを活用した英語教育から見えるもの」をテーマに桜美林中学高等学校の佐藤みか子氏と東京未来大学のカレイラ松崎順子氏が発表した。月例会は基本的に毎月最終日曜日で、年内は9月25日、10月23日に行った。また、12月18日(日)には第2回目となる東日本支部大会を計画している。場所はいずれも麗澤大学東京研究センター。本年度より、研究分科会活動(「文法・語法分科会」「映画と文学分科会」「中学校・高校分科会」など)を行っている。例会の前後の時間やメーリングリストなどを利用し意見交換を行い将来の出版活動につなげたいと考えている。

中部支部

■ATEM中部支部設立記念「学術講演会」 2011年2月19日(土)に岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパスにおいて、山梨正明氏(京都大学大学院教授)をお迎えした学術講演会「認知言語学と英語教育—イメージ文法からみた言葉の世界—」が開催され、約70名が参加しました。本講演では、認知言語学の特に「イメージ文法」の観点から、言語学の外国語教育への適用の可能性についてお話をいただきました。

■中部支部月例研究会 中部支部では、月例研究会を開催しています。その内容は以下の通りです。第1回研究会2011年1月22日(土)「映画」市民ケーンで学ぶ英語表現について」井土康仁(藤田保健衛生大学)、第2回研究会2011年3月12日(土)「ワンドショットで学ぶ映画英語」松葉明(名古屋市立平針中学校)、第3回研究会2011年5月14日(土)「英語の授業での一映画利用法」堀内ちとせ(藤田保健衛生大学)、「映画教材による大学でのCALL授業の実践」柳善和(名古屋学院大学)、第4回研究会2011年9月10日(土)「映画を用いた歴史的・文化的言語感」諸江哲男(愛知産業大学)、「映画を使用した英語学習の効果-学習者の内面的要因より」大石晴美(岐阜聖徳学園大学)

関西支部

5月14日(土)に第3回映画英語学ワークショップを京都外国语大学にて開催し、130名ほどの学生・教員が集まりました。今年は東日本支部の渡邊信先生を発表者としてお招きし、支部間の交流を図りました。

■研究発表 「映画『シェーン』の英語の特徴について」横山仁視・河野弘美、「映画の実例に基づいた中間構文の成立条件に関する意味論的考察」前田晃寿、「英仏日語における移動「経路」の表し方」濱上桂菜、「英語の比較相関構文におけるconditionalityについて」小林翠、「映画の反例的シーンを使った授業の一試案」飯田泰弘、「強意句をともなう構文イディオムとその構成性」吉川裕介、「知覚構文を通して「正しく」鑑賞する『ダークナイト』」藤本幸治。

■特別発表 「英語の映画・テレビ番組に現れる否定疑問文に対する<日本語的>な応答」渡邊信

■シンポジウム テーマ:「語用論で読み解く映画の英語」「発話媒介行為の慣用的用法に関する一考察」衛藤圭一、「映画にみる談話辞actuallyについて」五十嵐海理、「映画で学ぶokayの語用論」西川真由美

九州支部

九州支部における、昨年度から本年度現在にかけての主な活動としましては、11月に九州支部大会、1月及び7月には九州支部運営委員会を開催いたしました。以前にも紹介しましたが、九州支部は「和」をモットーとし、運営委員会から懇親会に至るまで非常に和やかな雰囲気を特色としております。また11月の九州支部大会におきましては韓国のSTEMからの参加者については事情により無かったものの、更に国際交流を深めつつ大盛況のうちに終わることが出来ました。

■本年度の支部大会 下記の通り開催。

日 時:11月19日(土)13時～
会 場:九州ルートル学院大学
テマ:「小学校で使えるアニメーションを利用した異文化&英語教育」
講 演:小林美代子先生(熊本大学)

事務局から ATEM会員管理システムについて

すでにご連絡をしております通り、本学会では7月に「ATEM会員管理システム」を新たに導入し会員の皆様の個人情報を一元管理することいたしました。

今後本システムによる情報提供・会員サービスを拡充していきたいと思いますので、下記URLにて皆様の情報が最新のものかご確認ください。

会員IDおよびパスワードは7月に郵送にてご連絡をしておりますが、ご不明な方は本部事務局(office@atem.org)までメールにてお問い合わせください。

会員の皆さまの個人情報は学会が「個人情報保護法」に基づいて責任を持って管理致しております。また、学会活動以外に使用されることはありません。

『個人のページ』の情報確認・修正のお願い

<https://www.atem.org/member/>

ATEM会員管理システムには、会員皆さま方の情報を確認・修正して頂ける『個人のページ』を作成しております。『個人のページ』の情報確認・修正をお願い致します。

問い合わせ先：映画英語教育学会(ATEM)本部事務局
TEL:(03)3365-0182 E-mail:office@atem.org

ATEM事務局から 2011年度会費納入のお願い

2011年度会費(2011年4月1日～2012年3月31日) 5,000円

- 2011年分の会費の入がまだお済みでない場合は、下記の郵便口座まで納入願います(5,000円)。会費の納入が遅れますと学会活動に支障をきたしますのでご協力ください。また、**2年以上滞納されますと会員資格を失います**。ご注意ください。
- 会費納入状況についてご不明な方は、同封の「ATEM会員管理システム」導入に従って、ログインを行い、ご自身の納入状況をご確認ください。



ATEM会員管理システムのログイン画面。メニューには「個人の会費納入状況」があります。ナビゲーションメニューには「個人の会費納入状況」があります。

個人の会費納入状況

過去3年分の納入状況が表示されています。

※必ず会費の納入状況をご確認ください。
※納入後一ヶ月以上経過しても表示が変わらない場合は何かの手違いの可能性があります。ご面倒でも本部事務局までお知らせください。

『映画英語教育学会事務局』口座番号 00820-3-1477

*郵便局備え付けの青色振替用紙をご利用ください。*必ず、通信欄に「○○年度年会費」と明記ください。

※ATEMでは会費納入は本部事務局への振込みが原則です。支部および個人会員が預かる事はありません。会員登録や学会からの配布物・情報サービスは会費納入を確認の上、本部事務局で手続きを行いますのでご注意ください。